



震災記

吉江喬松自筆原稿

西垣文庫  
文庫10  
8853





夜は明け方か  
 空は咽せぬ  
 人々の全身を  
 二陸線より  
 踏下がり込  
 んだ。

煙は空と霞  
 奇妍は暑  
 甚しき  
 空は咽せぬ  
 人々の全身を  
 二陸線より  
 踏下がり込  
 んだ。

自然の大  
 笑の  
 前には  
 我々は  
 手も足

湯水の一杯  
 借し  
 言葉の慰  
 安を  
 求め

疲勞した人  
 々の  
 休息の場  
 所を  
 提

らあより差し  
 迫つては  
 去法かつ  
 かい  
 くの

別  
巻

不安の一夜  
 戸外を  
 過し  
 た  
 眠り  
 不眠の  
 一

波の上から  
 見れば  
 全地帯  
 線のは  
 ちの波  
 がある  
 思ふま  
 じに  
 波の  
 勢は  
 大煙の  
 中を  
 さら  
 して  
 行く

輝いて  
 燦々  
 たる  
 人々と  
 並ぶ  
 煙の中  
 沖天

震動は  
 連続して  
 来る  
 煙の中  
 沖天

太陽は





















